

令和7年度

「運営に関する計画」

自己評価(最終評価)

大阪市立市岡東中学校

令和8年2月

目次

総括シート

● 学校運営の中期目標	3
● 中期目標の達成に向けた年度目標	4
● 本年度の自己評価結果の総括	6

目標別シート

最重要目標 1 <u>安全・安心な教育の推進</u>	7
● <u>取組内容 01 1-1 いじめへの対応</u>	7
● <u>取組内容 02 1-2 不登校への対応</u>	7
● <u>取組内容 03 1-3 問題行動への対応</u>	7
● <u>取組内容 04 1-3 問題行動への対応</u>	8
● <u>取組内容 05 1-5 防災・減災教育の推進</u>	8
● <u>取組内容 06 1-6 安全教育の推進</u>	8
● <u>取組内容 07 1-6 安全教育の推進</u>	8
● <u>取組内容 08 2-1 道德教育の推進</u>	8
● <u>取組内容 09 2-2 キャリア教育の充実</u>	8
● <u>取組内容 10 2-3 人権を尊重する教育の推進</u>	9
● <u>取組内容 11 2-4 インクルーシブ教育の推進</u>	9
● <u>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</u>	9
● <u>次年度(今後)への改善点</u>	7
最重要目標 2 <u>未来を切り拓く学力・体力の向上</u>	11
● <u>取組内容 12 4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成)</u>	11
● <u>取組内容 13 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(実態に応じた個別支援の充実)</u>	12
● <u>取組内容 14 5-2 健康教育・食育の推進</u>	12
● <u>取組内容 15 5-2 健康教育・食育の推進</u>	12
● <u>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</u>	12
● <u>次年度(今後)への改善点</u>	12
最重要目標 3 <u>学びを支える教育環境の充実</u>	13
● <u>取組内容 16 6-1 ICTを活用した教育の推進</u>	13
● <u>取組内容 17 7-1 働き方改革の推進</u>	13
● <u>取組内容 18 8-3 学校図書館の活性化</u>	14
● <u>取組内容 19 9-2 地域学校協働活動の推進</u>	14
● <u>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</u>	14
● <u>次年度(今後)への改善点</u>	14

大阪府立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

学校理念
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #c8e6c9; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">安心・安全な学校</div> <div style="background-color: #bbdefb; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">学力・体力の向上</div> <div style="background-color: #ffcdd2; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">人権尊重の精神</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎・基本の充実を図り、自ら学ぶ態度の育成に努め、学力の向上を図る。 ● 自らを尊重し、互いに違いを認め合い、他社へ思いやりの心を育て、人権尊重の精神を養う。 ● 基本的な生活習慣を身につけ、たくましく生きる力の基礎を育み、健康で活力ある学校生活をおくる生徒を育成する。
教育目標
<ul style="list-style-type: none"> ● よく聴き、よく見つけ、よく考えて正しく判断できる生徒になろう。 ● 協力し、自主的にものごとにとりくみ、やりぬく生徒になろう。 ● 心身ともに健康な、たくましい生徒になろう。
生徒努力目標
<ul style="list-style-type: none"> ● 時間を大切にしよう ● 学校を美しくしよう ● あいさつをしよう
現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度はいじめ問題、不登校生徒の問題について考えなければならない状況があった。いじめ問題については SNS を悪用し特定生徒の情報が複数の生徒に送られる事態が起こった。弁護士や警察署から講師を招いて SNS の使い方やその怖さについて話をさせていただくなど、予防に努めているが、生徒のケアと指導を今後も続けていく必要がある。 不登校問題については、1年生で2学期に不登校生徒が増えた。また不登校生徒の家庭から学校への要望レベルが高いものも見られ、保護者からの期待に応えるのは非常に難しい場面もあった。学校として、担任だけでなく学年教師、学年だけでなく養護教諭や他学年教師、また不登校支援担当者を準備したりなど多岐にわたって対応の幅を広げ、中には一時期より登校できるようになった生徒もいる。しかし、なかなか解決するところまでつながっていない。今後も教職員全体で連携し、それぞれの生徒にとって問題解決につながるよう、根気強く対応方法を考え続けていく必要がある。 一方、泊行事、文化発表会、体育大会など、どの行事も生徒は真剣に取り組み非常に盛り上がった。集団活動を通してよりよい人間関係を作り、経験を重ねていくことの大切さを感じる機会となった。2・3年生の学年行事でも、生徒自身が企画・運営をしていくことで、様々な能力を養うことができ、自分は必要とされているといった自己肯定感・自己有用感も育むことができ、学校生活が楽しいと感じる機会を増やすことにつながったと思われる。 ● 学力テストはおおむね結果が向上している。落ち着いた授業の様子、先生方の授業指導力をあげようとする意識の向上など、日ごろから生徒、教師ともに努力していることが結果につながっていると思われる。集団としての結果も大切だが、個々の学力を見ていくことも大切である。気になるのが授業内で学習理解が難しい、また家庭での学習習慣が身につけていない、という生徒が一定数存在することである。それぞれの学力層に対応した学習指導ができれば、さらに学力は向上していくと思われるので、効果的な指導方法を改善・研究していく必要がある。また、家庭学習の定着には同学年内で大きな隔たりがみられることが課題と思われるので、今後も家庭学習を含めた継続的な学習支援をしていく必要がある。 ● ICT の活用について昨年度は大きく数値が伸びた。しかし内容を見ると「こころの天気」の使用に偏っている部分があり、まなびのポータルなど学習理解に効果的な活用方法をさらに広げていく必要がある。 時差勤務制度が導入され教職員それぞれのライフスタイルに合わせて働くことが可能となり勤務

時間の使い方を本人が有効に決めることができる環境が整ってきた。さらに業務の効率化・分担化をすすめ、勤務時間内に業務を終える意識の向上も図っていきたい。

中期目標

安全・安心な教育の推進

- ◇ 令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。
▶ R7: 100% 達成
- ◇ 令和7年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
▶ 97.8% 達成
- ◇ 令和7年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和3年度末より減少させる。
▶ R3: 9.96%、R4: 9.12、R5: 9.34、R6: 17.24、R7: 14.97%(2学期) 未達成
- ◇ 令和7年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
▶ 88.4% 達成

未来を切り拓く学力・体力の向上

- ◇ 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、令和3年度より向上させる。
▶ R3: 45.2%、R7: 51.6% 達成
- ◇ 令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を、令和3年度より向上させる。
▶ R3: 54.2%、R7: 64.0% 達成
- ◇ 令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を、令和3年度より向上させる。
▶ R3: 47.9%、R7: 60.0% 達成
- ◇ 令和7年度末の校内調査における「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
▶ R7: 94.5% 達成
- ◇ 令和7年度末の校内調査における「家庭学習を習慣的に行っている」の項目について、「当てはまっている(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
▶ R7: 84.1%(「ほとんどしていない」を除く) 達成

学びを支える教育環境の充実

- ◇ 令和7年度末まで、学習者用端末などのICT機器を授業において毎日使用するようにする。
▶ 毎日使用できている 達成
- ◇ 令和3~7年度末まで、本校の教員1人当たり平均時間外勤務時間を全市中学校平均時間より少なくする。
▶ R7(4~12月): 本校 32時間 13分(大阪市 32時間 38分) 達成

2 中期目標の達成に向けた年度目標

安全・安心な教育の推進

- ◇ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を83%以上にする。
▶ R7: 83.1% 達成
- ◇ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
▶ R6: 17.24%、R7: 14.97%(2学期末) 達成
- ◇ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(市中学校平均

36.1%)

➤ R6: 29.0%、R7: 21.28%(2学期末) 未達成

◇ 校内調査において、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を79%以上にする。

➤ R7: 79.1% 達成

◇ 校内調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。

➤ R7: 88.4% 未達成

未来を切り拓く学力・体力の向上

◇ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を48%以上にする。

➤ R7: 51.6 達成

◇ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

➤ R6: 3年国語 1.04、数学 1.02、2年国語 1.01、数学 1.16、1年国語 1.04、数学 1.10

R7: 3年国語 1.02、数学 1.10、2年国語 1.03、数学 1.08、1年国語 0.97、数学 1.00 未達成

◇ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を64%以上にする。

➤ R7: 64.0% 達成

◇ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を55%以上にする。

➤ R7: 60.0% 達成

◇ 校内調査において、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を86%以上にする。

➤ R7: 94.5% 達成

◇ 校内調査において、「平日1日の家庭学習の平均時間はどれくらいですか?(塾・家庭教師などを含む)」の項目について、「1時間以上」と回答する生徒の割合を62%以上にする。

➤ R7: 55.3% 未達成

学びを支える教育環境の充実

◇ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

➤ R7: 57.5%(12月末) 達成

◇ 学習者用端末にある「スクールライフノート」の活用を週3回以上実施する。

➤ 週5日実施 達成

◇ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を43%以上にする。(基準1:1か月の時間外勤務時間が45時間以下かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下)

➤ R7: 50.%(12月末) 達成

◇ 学習者端末にある各種機能を教職員が理解し、授業や家庭学習において活用できるように取り組む。

➤ 各種機能のアクセス場所を集約させ利便向上を図った。多くの教職員が新たな活用方法を開拓し実践している。達成

◇ 繁忙期を除いて毎日の完全退勤を19時とする。

➤ ほぼ実現できているが、事務室業務が非常に多く、目標通りになっていない。未達成

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

- いじめへの規範意識や自己肯定感が目標を達成しており、生徒が安心して自分を表現できる土壌が整いつつある。
- 端末活用率(50%以上)や「スクールライフノート」の毎日活用が定着し、対話的な学び(51.6%)や授業理解度(94.5%)の高さに直結している。
- 全体の在籍比率が減少(17.24%→14.97%)しており、学校全体の魅力向上や早期対応が功を奏している。
- 勤務時間基準を満たす教員が 50%に達し、デジタル化による業務効率化が具体的な数字として現れた。

項目や取組の重点の置き方について

- 「授業はわかる(94.5%)」という高い認知(理解)を、「家庭学習(55.3%)」や「テスト結果(対府比)」という具体的な行動・成果へどう結びつけるかが次年度の鍵となる。
- 全体比率の抑制には成功しているため、今後は「長期欠席からの回復(改善率)」という、より個別の深い支援にリソースを集中させるべきである。
- 「19時完全退勤」を阻む事務業務の精査を行い、教職員がより生徒と向き合う時間、あるいは早期退勤できる環境を物理的に確保する必要がある。

目標を達成できなかった項目に見られた課題について

- 授業理解度は高いものの、家庭学習時間が目標に届かず、チャレンジテストの結果(特に1年生の国語・数学)に結びついていない。「教え方」の向上に対し、生徒の「学び方(自学自習)」の確立が遅れている。
- 市平均(36.1%)に対し、自校の改善率(21%)が低い点は深刻である。学校復帰だけをゴールにせず、ICTを活用した家庭での学習支援や、別室登校の質的向上が不足していた可能性がある。
- 「学校が楽しい(88.4%)」が目標に届かなかった要因として、学力向上への不安や、不登校傾向にある生徒の「居場所感」の不足が影響していると推察される。

成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと

- 授業と家庭学習を切り離さず、端末を持ち帰った上での AI ドリル活用や、スクールライフノートを用いた「学習計画・振り返り」の習慣化を強化する。
- 市平均を超えることを目標に、オンデマンドでの授業配信や校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム)、あるいは地域リソースとの連携を深め、登校以外の「改善」の形を多様化させる。
- チャレンジテストの結果を分析し、特に1年生の基礎学力向上に向けた「学び直し」の時間を帯時間(朝学習等)で確保する。
- 19時退勤を阻む「事務室業務」を具体的にリストアップし、生成 AI の活用やワークフローのデジタル化をさらに進め、物理的な業務負担を軽減させる。

大阪市立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>安全・安心な教育の推進</p> <p>◇ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を83%以上にする。</p> <p>▶ R7: 83.1% 達成</p> <p>◇ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>▶ R6: 17.24%、R7: 14.97%(2学期末) 達成</p> <p>◇ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>▶ R6: 29.0%、R7: 21.28%(2学期末) 未達成</p> <p>◇ 校内調査において、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を79%以上にする。</p> <p>▶ R7: 79.1% 達成</p> <p>◇ 校内調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。</p> <p>▶ R7: 88.4% 未達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容01【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>1-1 いじめへの対応 ※生活指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭訪問、教育相談を中心に生徒個々の実態を把握し、生徒理解を深める。 ● 生徒への対応をスクールカウンセラー、生活指導支援員など複数のサポート職員と教員が連携して進める。 <p>◇ 生徒アンケート「悩みがあるときや困ったときに相談できる先生はいる」の質問項目で肯定的に答える生徒の割合を1回目より2回目で向上させる。</p> <p>▶ 75.9%(R7.7) 75.9%(R7.12) 未達成</p>	B
<p>取組内容02【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>1-2 不登校への対応 ※生活指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スクールカウンセラーと連携し、当該生徒個々の実態に応じた対策を講じる。 ● 生活指導支援員と連携し、別室で学習できる環境を整える。 ● 養護教諭と連携し、生徒個々の実態を把握し、教職員全体で生徒理解を深める。 <p>◇ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。※前年度29%</p> <p>▶ R6: 29.0%、R7: 21.28%(2学期末) 未達成</p>	C
<p>取組内容03【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>1-3 問題行動への対応 ※生活指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時間励行・挨拶の習慣付け、正しい言葉遣い、正しい服装の指導をおこなう。 <p>◇ 生徒アンケート「あいさつをしている」の質問項目において最も肯定的に答える生徒の割合を76%以上にする。</p> <p>▶ 73.8%(R7.12) 未達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容04【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-3 問題行動への対応 ※生活指導部 ● 校則と集団生活でのマナーを習得させる。 ◇ 生徒アンケート「学校の決まり・規則を守っている」の質問項目において最も肯定的に答える生徒の割合を67%以上にする。 ▶ 65.3%(R7.12) 未達成	B
取組内容05【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-5 防災・減災教育の推進 ※生活指導部 ● 地震、津波、火災等を想定した避難訓練を実施する。 ● 防犯についての避難訓練について模索していく。 ◇ 避難訓練を年間2回実施する。 ▶ 地震・火災……5月、地震・津波……12月(予定) 達成	B
取組内容06【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-6 安全教育の推進 ※健康教育部 ● 整美委員会活動や定期的な点検により、校内美化の意識を高める。 ◇ 生徒アンケート「学校をきれいに保つため、清掃活動に積極的に取り組んでいる」の質問項目で肯定的に答える生徒の割合を89%以上とする。 ▶ 89.7%(R7.12) 達成	B
取組内容07【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-6 安全教育の推進 ※教務部 ● 全体研修を計画し、全職員が参加できる体制をつくる。 ◇ 生徒の安心安全にかかわる研修会を年間1回以上実施する。 ▶ 特別支援研修・保健研修・生活指導研修(4月)、AED研修(6月) 達成	B
取組内容08【2 豊かな心の育成】 2-1 道徳教育の推進 ※人権・道徳委員会 ● 学校生活のさまざまな場面を通じて、人権尊重の精神を養う ● 道徳科を要とし、学校の教育活動全体を通じて道徳性を養う。 ◇ 学校教育活動を通して人権教育の深化・充実を図り、生徒アンケート「相手の気持ちを考えて話をしたり行動したりしている」の質問項目で、最も肯定的に答える生徒の割合を74%以上にする。 ▶ 52.2%(R7.12) 未達成	C
取組内容09【2 豊かな心の育成】 2-2 キャリア教育の充実 ※教務部 ● さまざまな体験学習や鑑賞などを実施し、豊かな感性を育てる。 ◇ 生徒アンケート「行事は楽しみである」の質問項目において最も肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。 ▶ 69.7%(R7.12) 未達成	B
取組内容10【2 豊かな心の育成】 2-3 人権を尊重する教育の推進 ※健康教育部 ● 性教育を通して命の大切さを理解させる。 ◇ 生徒アンケート「命や人権は大切だと思う」の質問項目で最も肯定的に答える生徒を92%以上とする。 ▶ 88.8%(R7.12) 未達成	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容11【2 豊かな心の育成】 2-4 インクルーシブ教育の推進 ※特別支援教育委員会 ● 特別支援学級在籍生徒が個々の力を発揮し、伸ばすことができる環境を整える。 ◇ 月1回以上、特別支援学級担任で教科会を実施し、情報共有、相談をすることで個に応じた支援の在り方を工夫する。 ▶ 毎月実施 達成	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容 01 未達成
● 相談できる先生がいる割合が 75.9%で横ばい。SC 等との連携は進んでいるが、生徒側の心理的距離が縮まっていないと見る。
取組内容 01 取組内容 02 未達成
● 不登校改善率が 21.28%(前年 29%)に低下。教室復帰や社会的自立への接続が課題。
取組内容 03 未達成
● 挨拶の肯定率 73.8%(目標 76%)。日常的な習慣化には至っていない。
取組内容 04 未達成
● 校則遵守の肯定率 65.3%(目標 67%)。規則の「納得感」に課題がある可能性。
取組内容 05 達成
● 年2回の訓練を計画通り実施。防災意識のベースはできている。
取組内容 06 達成
● 清掃活動への積極性が 89.7%と高い。美化意識が定着している。
取組内容 07 達成
● AED、特別支援、生活指導と多角的な研修を実施。組織的な対応力が向上。
取組内容 08 未達成
● 相手を思いやる行動が 52.2%(目標 74%)と大幅に未達。知識もあり、行動にも移しているが、生徒自身の感覚との乖離が顕著である。
取組内容 09 未達成
● 行事の楽しみ度が 69.7%(目標 70%)と惜敗。内容のマンネリ化や、生徒の主体性の欠如が懸念される。
取組内容 10 未達成
● 命や人権を大切だと思える意識は 88.8%と高いが、目標 92%には届かず。
取組内容 11 達成
● 特別支援学級の教科会を毎月実施。情報共有の仕組みが確立。

次年度(今後)への改善点
取組内容 01
● 相談のハードルを下げるため、1人1台端末活用の導入や、担任以外の教員との教育相談週間の設定を検討する。
取組内容 01 取組内容 02
● 校内教育支援センターを設置し、別室＝自習だけでなく、ICTを活用した遠隔授業参加など、生徒の興味関心に基づいた登校動機付けを強化する。

取組内容 03
● 教員からの声掛けに加え、生徒会による「あいさつ運動」や、部活動単位での地域清掃を通じた自然な挨拶機会の創出。
取組内容 04
● 校則検討委員会などの場を設け、生徒自身が「なぜこのルールが必要か」を議論し、納得して守れる主体的ルールを再構築する。
取組内容 05
● 防犯訓練の具体化(不審者対応など)や、地域の防災組織と連携したより実践的な「地域合同避難訓練」への発展を図る。
取組内容 06
● 「清掃」から「環境デザイン」へと、自分たちの手で校内掲示を整えるなど、愛校心を育む活動への拡張について検討する。
取組内容 07
● 各研修の内容が実際の現場でどう活かされたか、事例検討(ケーススタディ)を中心としたより実践的な研修への移行を図る。
取組内容 08
● 道徳の授業を「書く・読む」だけでなく「ロールプレイ(役割演技)」中心とし、具体的なトラブル場面での対処スキルを習得させる。
取組内容 09
● 企画段階から実行委員会(生徒)の裁量を広げ、自分たちで作り上げる「成功体験」を重視した行事運営へのシフトを図る。
取組内容 10
● 外部講師(助産師、LGBTQ 当事者、パラスポーツ選手等)を招いた、より多様な視点に触れる「本物」の体験・講演を実施する。
取組内容 11
● 情報共有にとどまらず、交流学級(通常学級)との「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくり」の共同研究へと移行する。

大阪市立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>未来を切り拓く学力・体力の向上</p> <p>◇ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を48%以上にする。</p> <p>▶ R7: 51.6% 達成</p> <p>◇ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>▶ R6: 3年国語1.04、数学1.02、2年国語1.01、数学1.16、1年国語1.04、数学1.10 R7: 3年国語1.02、数学1.10、2年国語1.03、数学1.08、1年国語0.97、数学1.00 未達成</p> <p>◇ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を64%以上にする。</p> <p>▶ R7: 64.0% 達成</p> <p>◇ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を55%以上にする。</p> <p>▶ R7: 60.0% 達成</p> <p>◇ 校内調査において、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を86%以上にする。</p> <p>▶ R7: 94.5% 達成</p> <p>◇ 校内調査において、「平日1日の家庭学習の平均時間はどれくらいですか?(塾・家庭教師などを含む)」の項目について、「1時間以上」と回答する生徒の割合を62%以上にする。</p> <p>▶ R7: 55.3% 未達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容12【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成) ※教務部</p> <p>● 年間を通して、校内研究授業を行い、授業力の向上に取り組む。</p> <p>◇ 年間を通じ、校内研究授業を1人1回実施する。</p> <p>▶ 予定通り実施中、25名中16名が実施済み。(2/5現在) 達成</p>	B
<p>取組内容13【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(実態に応じた個別支援の充実) ※教務部</p> <p>● 教科の特性を活かし、よくわかる授業を積極的に行う。</p> <p>◇ 生徒アンケート「授業の内容が理解できている」の質問項目で肯定的に答える生徒の割合を86%以上にする。</p> <p>▶ 94.5% (R7.12) 達成</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容14【5 健やかな体の育成】 5-2 健康教育・食育の推進 ※健康教育部 ● 保健委員会の活動や保健指導を通し、生徒の健康意識を高める。 ◇ 生徒アンケート「生活習慣を見直しながら、健康的な生活が送れるよう意識している」の質問項目で肯定的に答える生徒を78%以上とする。 ▶ 80.6%(R7.12) 達成	B
取組内容15【5 健やかな体の育成】 5-2 健康教育・食育の推進 ※健康教育部 ● 食育キャンペーンや食育通信を通して、食に対する知識や関心を高めさせる。 ◇ 好き嫌いなくバランスの取れた食事ができるよう、給食の残食率減少を促す活動をする。 ▶ 7.87% 未達成	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容12 達成 ● 校内研究授業を順調に遂行。教員の研鑽が数値に表れている。
取組内容13 達成 ● 授業理解度が94.5%(目標86%)と極めて高い。授業改善が成果として現れ始めている。
取組内容14 達成 ● 健康意識が80.6%(目標78%)と好調。保健委員会の活動が功を奏している。
取組内容15 未達成 ● 残食率7.87(1月時点)。食育指導やキャンペーンの効果は一定数出ている。

次年度(今後)への改善点
取組内容12 ● 授業の実施を目標にする段階から、生徒の変容(思考力・表現力の向上)を評価指標にする段階へと、指導と評価の一体化を図る。
取組内容13 ● 「理解できている」の先にある「学びの深化」を目指し、自学自習の力(メタ認知能力)を育てる指導を導入する。
取組内容14 ● 意識から行動の継続へ。睡眠時間やスマートフォンの利用制限など、具体的な家庭内ルールの啓発を進める。
取組内容15 ● 地産地消の紹介や飲食関係者との交流を通じ、単なる完食ではなく、食への感謝やフードロスへの関心を高める。

大阪市立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学びを支える教育環境の充実	A
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ▶ R7: 57.5%(12月末) 達成 ◇ 学習者用端末にある「スクールライフノート」の活用を週3回以上実施する。 ▶ 週5日実施 達成 ◇ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を43%以上にする。(基準1:1か月の時間外勤務時間が45時間以下かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下) ▶ R7: 50.0%(12月末) 達成 ◇ 学習者端末にある各種機能を教職員が理解し、授業や家庭学習において活用できるように取り組む。 ▶ 各種機能のアクセス場所を集約させ利便向上を図った。多くの教職員が新たな活用方法を開拓し実践している。達成 ◇ 繁忙期を除いて毎日の完全退勤を19時とする。 ▶ ほぼ実現できているが、事務室業務が非常に多く、目標通りになっていない。未達成 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容16【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】	A
6-1 ICTを活用した教育の推進 ※教務部 <ul style="list-style-type: none"> ● 主体的、対話的で深い学びができるようICT機器を活用し、生徒が主体的に学習する授業を展開する。 ◇ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ▶ R7: 57.5%(12月末) 達成 	
取組内容17【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	A
7-1 働き方改革の推進 ※管理職 <ul style="list-style-type: none"> ● 教職員への負担が偏らないように、年度途中にも人材の確保に努める。 ● 教職員のICT活用による学校経営の効率化をさらに進める。 ◇ 「業務の負担軽減を感じることができた」に「そう思う」と感じる教職員の割合を60%以上にする。 ▶ R7: 61.5% 達成 	
取組内容18【8 生涯学習の支援】	B
8-3 学校図書館の活性化 ※図書館担当 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。 ◇ 図書館の開館を週6回以上行う。※昼休み時・放課後はそれぞれ1回と数える。 ▶ 達成 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容19【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 9-2 地域学校協働活動の推進 ※教務部 ● 学校元気アップ事業を活用し、自主学習会を実施する。 ◇ 定期テスト前や放課後、長期休業中自主学習会で、平均週2回以上実施する。 ▶ 予定通り実施 達成	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容 16 達成 ● 端末活用率 57.5%(目標 50%)。授業での ICT 活用が定着してきた。
取組内容 17 達成 ● 働き方改革では目標値を達成。ICT 活用による校務効率化が進んでいる。
取組内容 18 達成 ● 図書館の開館目標を達成。読書環境が維持されている。
取組内容 19 達成 ● 自主学習会の週2回実施。地域のリソースを有効活用できている。

次年度(今後)への改善点
取組内容 16 ● 活用頻度だけでなく、プレゼン作成や共同編集、データ分析など「活用内容の質」を高める。
取組内容 17 ● 一部教員への負担偏重を防ぐため、業務の見直しと、行事の精選を検討する。
取組内容 18 ● 単なる開館維持から、教科の調べ学習と連動した「学校司書と連携した探究活動」の活性化を図る。
取組内容 19 ● 参加人数の固定化を防ぐため、学習以外の「放課後の居場所」としての機能拡充させる。